

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 16 日現在

機関番号：17601

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2012～2013

課題番号：24652095

研究課題名(和文) 医学系国際会議におけるアジア英語の使用実態に関する研究

研究課題名(英文) Asian English Medical Conference Discourse Research Project

研究代表者

Michael Guest (Guest, Michael)

宮崎大学・医学部・准教授

研究者番号：00404400

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,200,000円、(間接経費) 360,000円

研究成果の概要(和文)：この調査期間の当初に立てた目標について、私自身は十二分に達成することが出来たのではないかと自負している。2年間行った調査プログラムの2年目には、私は4つの国際医学学会に出席し、140人以上の日本人、および80人以上の他のアジア諸国の医療関係者の英語でのプレゼンテーションについて、情報収集を行った。その結果、日本人が英語で行う医学発表において改善が必要である事項は「冒頭のつかみや結び、話題の転換、質疑応答の処理」であることを明らかにできた。これらの調査結果は、3編の英語教育関連論文として学術雑誌に掲載された。(1つは出版待ち)このおかげで1つの受賞論文にも直接的な影響を与えることとなった。

研究成果の概要(英文)：I believe that the goals I initially set for this research period have been more than met. In the second year of the two-year research program I was able to attend 4 international medical conferences, making notes and collecting data on over 140 Japanese medical presenters and over 80 presenters in English from other Asian countries. The results indicated clearly which aspects of Japanese English medical presentations needed improvement and which aspects were in conformity with Asian regional standards. I have presented these results at three different academic conferences in three different countries. These results have also been published in three published academic papers (one pending). As a result of this research and subsequent presentations and publications, I was asked to author a commercial book on improving Japanese doctors' performances at international conferences which is due for publication in October 2014. I have also conducted workshops on presentation skills.

研究分野：英語学

科研費の分科・細目：挑戦的萌芽研究

キーワード：presentations workshops medical conferences Asian English ESP Professional English Medical discourse

## 1. 研究開始当初の背景

この研究開始当初の背景としては、日本人医師が国際学会に参加する際に必要としていることを確立する必要があり、実用的な提言や資料を開発し、発表能力向上の為のワークショップ開催を計画していたことがある。これを行う為には、アジアの医学界における英語レベルの標準・基準をより明確にすることが必要だった。この基準を明確にすることは、医学国際学会に参加する若い日本人医師にとって有用であると同時に、英語が実際どのようにアジアの医師の間で使われているのかについて理論的基盤が確立され、有効な教材や学習会の開発につながると考えた。

## 2. 研究の目的

この研究では、ノンネイティブ同士では英語がどのように使われているかに焦点を置き、特にアジアの国際医学学会に着目した。医師が学会やミーティングで用いる英語のアジア基準がどこにあるのかについて認識することにより、非常に実用的な資料やワークショップ、ガイドラインに適用する

ことが可能となり、日本人医師の国際学会やミーティングへの参加及びそれに向けた準備の一助とすることができると考えている。

## 3. 研究の方法

まず始めに、大学病院で働く日本人医師を対象として、英語での発表の経験や不安について調査を行い、50を超える回答を得た。この調査結果により、国際学会において英語で発表する際にどのような問題や不安を抱えているかを示すことに成功した。その後、私自身5つの医学系国際学会(3つは日本、1つはソウル、1つはバンコク)に出席し、140人を超える日本人医師と50人を超える他のアジア諸国の医師の発表能力についてのデータを収集した。一般的に見られた長所と短所については、有効とされているプレゼンテーションの基本方式に照らし合わせて求めた。このデータは、学会での発表だけではなく、討論会への参加やポスターセッションでの討論能力についても含んでいる。

#### 4. 研究成果

観察とそれによって得られたデータを照らし合わせた結果、医学系国際学会において、日本人医師に特に改善が必要なこととして、

- 1) 質疑応答への対応
- 2) つなぎ文句
- 3) 冒頭や結びの口切り

の3点が挙げられた。

専門用語や、基本的な文法、科学的手法の知識、語句の用法は他のアジアの医学専門家の標準レベルと同程度であった。また発音は障害とはならなかったものの、イントネーションは弱点だと考えられた。

以上により、発表者に必要なスキルの向上を図るワークショップを開催することが可能となった。日本人医師にとって発表で最も不安とされる質疑応答への対処や発表そのものに「流れ」を盛り込むことについては、成功例・失敗例各々の特徴を示すことで解決策を提示することにした。これらの調査結果を元にして、日本国内では医師を対象としたプレゼンテーションに関するワークショップを行うこと

となり、また2学会において調査結果を発表するところとなった。更に著書「日本人のための学会発表サバイバル」を出版することとなり、現在日本および他のアジア諸国の若い医師たちのためのネットワーク構築を行っている段階である。

5. 主な発表論文等  
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 5 件)

1. Guest, Michael :  
Asian Professional Discourse Communities: Where should the ESP pedagogical focus be?

Language Education in Asia (LEIA) Journal  
Vol. 5/1 2014 (in process) [査読有]

2. Guest, Michael :  
Discourse versus corpus analysis in materials design: A case study.  
In N. Sonda & A.Krause (Eds.),  
*JALT2012 Conference Proceedings*.  
Tokyo: JALT.  
2013 (9-16) [査読有]

3. Guest, Michael,  
Nambu, Miyuki :  
LET Kyushu-Okinawa Bulletin  
Asian Models for Asian Students:  
An ESP/ELF Research Project  
No. 13, March 2013 (1-8) [査読有]

4. Guest, Michael :  
Japanese Doctors at International Medical Conferences: Why the

Worry?

JASMEE Journal of Medical English Education 12(3) 2013 (47-55) [ 査読有 ]

5. Guest, Michael :

English for Specific or Academic Purposes: Using Symbols, Acronyms, and Shorthand in ESP  
Proceedings of the 20th Annual KOTESOL International Conference, Seoul, Korea 2012 (105-112) [ 査読有 ]

[ 学会発表 ] (計 8 件)

1. Guest, Michael :

Asian Academic and Professional Discourse Communities: Where should the pedagogical priorities be?  
CamTESOL Conference and Regional Symposium  
Phnom Penh, Cambodia (2014/02/21)

2. Guest, Michael :

Japanese Doctors' English Presentations: A pathology, diagnosis, and suggested treatments

招聘講師

40<sup>th</sup> Japanese Endocrinological Conference Morning Seminar  
Miyazaki Shimin Plaza, Miyazaki (2013/10/26)

3. Guest, Michael :

A pathology, diagnosis, and treatments: Japanese Doctors' Performance at International Medical Conferences

2013 International Conference on Applied Linguistics Kaohsiung National University of Tourism & Hospitality Kaohsiung, Taiwan (2013/05/24)

4. Guest, Michael :

Japanese doctors' English performance at international conferences :  
A pathology, diagnosis, and treatment  
JASMEE Conference, Chiba (2013/07/19)

5. Guest, Michael :

Medical English in Japanese Discourse and the Rise of an Asian EFL.  
European Society for the Study of English Conference  
Bogazici University, Istanbul, (2012/09/06)

6. Guest, Michael :

Discourse vs. Corpus Analysis in ESP Materials Development  
JALT Conference, Hamamatsu (2012/10/13)

7. Guest, Michael :

Using symbols, acronyms and shorthand in ESP (English for specific purposes)  
KOTESOL Conference, Seoul S. Korea (2012/10/21)

8. Guest, Michael :

The Rise of an Asian EFL and Its Role in Medical English Education

JASMEE Conference  
Ichigaya, Tokyo (2012/07/21)

〔図書〕(計 1 件)

1. Guest, Michael:

**(日本語訳 南部みゆき)**

日本人のための学会発表サバイバル  
(仮題)

**株式会社 メディカルビュー社**

**(現在進行中)**

出版予定日 2014年10月

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：

番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

Michael Guest (Michael Guest)

宮崎大学・医学部・准教授

研究者番号：00404400

(2) 研究分担者

( )

研究者番号：

(3) 連携研究者

( )

研究者番号：